

## あ と が き

第2回「極限条件におけるハドロン科学」研究会（原研主催、平成12年1月24～26日）に出席して感動した。クォークとグルーオンの世界の話が中心で殆ど理解できなかったが、全部の Talk を聞いた。サボる事しか考えない小生の人生で初めての快挙である。若い大学院生の Talk が半分以上を占め、彼等の研究に対する情熱と、優秀さに感動した。また、数人の先生方の熱心な質問に感動した。我々、核データ分野で時折見かける教育的な質問などは皆無である。皆が熱いのである。

懇親会で積極的に若い人と話してみた。皆が生き生きとしている。大学を出てからの職は非常に難しいそうだが、皆がはつらつとしている。40年前には、核データ分野もこの様な状態であったのだろうか？

Talk を辞書で引いてみると、「(形式ばらない) 講演」とある。我々も、Presentation から Talk へ移る努力が必要ではなからうか？ 若い人を巻き込み、核データが熱くなるために。

井頭政之

iga@nr.titech.ac.jp

核データニュース編集委員会

中川 庸雄 (委員長、原研)、井頭 政之 (東工大)、岩本 修 (原研)、喜多尾憲助 (データ工)、長谷川 明 (原研)、吉田 正 (武蔵工大)

